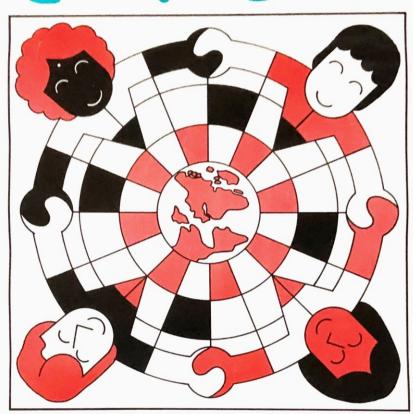
1986国際平和年



人権擁護、非核・平和宣言の街





"World Peace Mark" 桜井市立大三輪中学校 1985年度1年生の皆さんの作品より













国際婦人デー 国際人種差別反対デー 憲法週間 差別をなくす強調月間 国連軍縮週間 人権週間 3月8日 3月21日 5月1日~7日 7月1日~31日 10月24日~31日 12月4日~10日

世界人権宣言桜井市実行委員会

桜井市/桜井市教育委員会/桜井市人権擁護委員会/桜井市同和教育推進協議会/桜井市労働組合協議会 桜井市同和教育研究会/桜井市解放保育研究会/部落解放同盟桜井市協議会/あらゆる差別と闘う桜井市民共闘会議 桜井市衛工会/桜井市幼・小・中PTA連絡協議会/桜井市企業内同和教育推進協議会/桜井市地域婦人団体連絡協議会 桜井市社会福祉協議会/桜井市仏教会/桜井市高等学校同和教育研究会/私学高校同和教育研究会 桜井市公共職業安定所/桜井市解放会館連絡会/部落差別をなくす桜井市民会議 このマークは | 986年、国連が国際平和年を制定した年に奈良県の中学生徒が作成したワールドピースマークに平和のメッセージを添えて世界各国の大統領府、首相官邸、大学、美術館博物館に送ったところ多くの国から激励のお返事をいただきました。その中でも3月 | 0日にブルガリアのジフコフ書記長のメッセージをアンゲルアンゲロフ駐日大使、バーエフ公使がメッセージを携えて奈良県の桜井市立大三輪中学校に記念品と一緒に届けていただきました。その年に代表生徒2名と美術教師がソフィアでの平和の旗集会にご招待していただき世界の子どもたちと平和交流を深めることができました。この素晴らしいピースマークをデザインし、平和交流に参加したのが桜井市三輪の平等寺の丸子さん。2022年に三輪山平等寺75世 新命住職になられた記念に | 986 国際平和年 World Peace Mark が入った色紙を参加者の方々に贈呈されました。

この度、万博開催中のブルガリア館ゲオルギ・コストフ館長様のご厚意で丸子住職のピースマーク(色紙)をブルガリア館に期間限定で展示していただくことになりました。ご高覧ください。会期中の大阪万博大成功とブルガリアの発展、戦後80年を迎えて世界の恒久平和をお祈りします。

三輪山平等寺75世住職 丸子孝仁

美術教師 杉本哲也

This mark, known as the World Peace Mark, was created in 1986, the International Year of Peace declared by the United Nations, by a junior high school student in Nara Prefecture. With messages of peace attached, it was sent to presidential offices, prime minister's residences, universities, museums, and art galleries around the world, and many countries kindly sent back letters of encouragement.

On March 10 of that year, a message from Todor Zhivkov, General Secretary of Bulgari was personally delivered to Omiwa Junior High School in Sakurai City, Nara, together with commemorative gifts, by Ambassador Angel Angelov and Minister Baev. Later that same year, two student representatives and their art teacher were invited to Sofia to participate in the Peace Flag Gathering, where they were able to deepen exchanges of friendship and peace with children from around the world.

The wonderful Peace Mark was designed by Mr. Maruko of Byodoji Temple in Miwa, Sakurai, who also took part in the peace exchange. In 2022, upon his succession as the 75th head priest of Byodoji Temple on Mt. Miwa, Rev. Takahito Maruko presented calligraphy papers inscribed with the "1986 International Year of Peace – World Peace Mark" to participants in commemoration of his succession.

Thanks to the kind courtesy of Mr. Georgi Kostov, Director of the Bulgaria Pavilion, this Peace Mark (calligraphy paper) by Rev. Maruko will be on special display at the Bulgaria Pavilion during the Expo. We warmly invite you to view it.

On this occasion, we pray for the great success of Expo Osaka, for the continued prosperity of Bulgaria, and for everlasting world peace as we mark the 80th year since the end of the war.

Rev. Takahito Maruko 75th Head Priest of Byodoji Temple, Mt. Miwa

Tetsuya Sugimoto
Art Teacher





「ピースメッセージ展」

地域から平和のメッセージを発信し続け、 日本から世界に平和の風を届ける。

奈良県

沖縄の「平和学習」から生徒一人一 人が戦争のない平和な世界を築き たい想いを美術作品に込める。

様々なジャンルで活躍されている 方々、各種施設の皆さまに平和の 想いが届くことを願って平和の風

世界が一つになり、国境を超え さらなる平和への取り組みの一助 になることを願う

一人一人が身近なところから 平和と友情のネットワークを作り上げる。

「ピースマーク」の作成と「平和の旗」への参加

「ピースメッセージ展」 の原点 1985~86年

大三輪中学校の1年生が世界平和の「ピースマーク」が国内外で大きな反響を呼び、ブルガリ アで開催された「国際平和年」の国際児童集会「平和の旗」に招待された。世界に向けて平和へ の願いをアピールし、テレビ、新聞などに多く取り上げられた。

> 想いの糸で つながる27年

「ピースメッセージ展」 の契機 2012年~14年

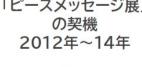
沖縄への修学旅行で戦争の悲惨さを知り、ひめゆり平和祈念資料館 宮城先生の講演で平和の尊さを全員でかみしめる

2012年に春日中学校に来ていただき、戦時中のお話やひめゆり学徒隊の生き残りとして戦 争体験を熱く語ってもらい、様々な想いを聞くことができた。いかに戦争のない平和な日常 の大切さを改めて生徒、教師全員が感じた。

> そして 未来に向けて

平和という言葉のいらない素晴らしい世界を目指して

地域から生徒たちと平和のメッセージを発信し、身近なところから平和と友情の ネットワー クを築き、『花よりも花を咲かせる土になること』を願って「平和の風」を テーマに2015年8月に第1回を開催した。





「ピースメッセージ展」 第1回開催 2015年

はじまりは40年前

■1985年に桜井市大三輪中学校の1年生が「反戦・反核」をテーマに「ピースマークのデザイン」を制作、個性豊かな作品が生まれた。

- ●使う必要のない大砲に鳥が巣を作ったり、人々が笑顔で地球を取り囲んだり、黒く塗った地球に「平」の形で 木が立つデザインなど「新鮮な感覚の個性豊かな作品」が集まった。
- ●その後、夏休みの特別教育活動の「「平和学習」」のとき、広島と長崎の原発の惨状についてビデオを全校で見た後のクラス会で「あのマーク活用する方法」をみんなで考えた。

国内外に成果を 発信

■2学期に入りアメリカ、ソ連、フランスなどの元首をはじめ、国内の大学や美術館、団体等に 作品を送り、デザインの意見やメッセージなどをもらった。

● 宛名は生徒一人一人が書いた。「戦争は人類を破滅させます。世界平和実現のための平和マークを送ります」というメッセージを添えた。国外には英文の手紙を送り、国内を含めて約数十か所に送った。

大きな反響を呼ぶ

■海外からの15通を含む30通以上の返書が届き、大きな反響があった。

● 沖縄県立博物館、石橋美術館、大原美術館、足立美術館、古代オリエント美術館など国内から指摘やアドバイスなどが届いた。また、フランス大統領府や大英博物館など海外から激励の言葉が贈られた。生徒たちは寄せられた意見を参考にマークを着色するなど、新たな展開に取り組んだ。この取り組みはテレビ、新聞などに取り上げられ大きな反響を呼んだ。







1986年ブルガリアから「平和の旗」の集会への参加要請が来る

■ブルガリア人民共和国から国際児童集会「平和の旗」への参加を要請された。

- ●当時の世界は冷戦状態で軍拡競争により世界も平和が脅かされる状態であった。国連では1985年10月にその状況を打破するため「1986年を国際平和年とする」と、正式に宣言されていた。
- ●そんな折、1986年3月にブルガリア人民共和国の駐日大使、公使が直接、奈良の中学校に来られて、大統領のメッセージを、ピースマークを作成した生徒代表に手渡された。

そして 世界大会に参加

「平和の旗」集会への招待状が届き3人がブルガリアへ

■11月に開催された「平和の旗」集会に先生と生徒2名が参加。

● 1986年11月にブルガリアの首都ソフィアで開催された子供の交際平和運動「平和の旗」集会に参加。この集会は世界平和をテーマに創造力豊かな作品やコーラス、ダンスを発表・交歓するもの。15日からの3日間、開会式、平和と友情の木の記念植樹、コンサート、作品の発表会、小学校参観、市内観光などを行い、平和とは何かを世界的な視野で考えるきっかけになった。







2025年の9月6日から 13日まで大阪・関西万博ブルガリア館のゲオルギ・コストフ館長様のご厚意で、40年前に大三輪中学校 | 年生が描きましたワールドピースマークとブルガリアで開催されました「平和の旗集会」のパネルを奇跡的に展示していただきました。

今から 40 年前の 1985 年、大三輪中学校美術担当教論でいらっしゃった杉本哲也先生が 1年生の美術の期末試験にピースマークを描く問題を出題されました。杉本先生は「子ども たちの思いを世界に届けよう」と、平和のメッセージを英文で作成し、それを生徒たちが書き 写してワールドピースマークに添えて、世界各国の大統領府や首相官邸、国内の美術館等 100 ヶ所に送りました。フランスやイギリス、国連等からたくさんの応援の返事をいただきました。国内の美術館から私の描いたワールドピースマークに配色のアドバイスが寄せられ改め て3色で清書しました。

翌年の 1986 年、国連の国際平和年にちなみブルガリアの首都ソフィアで開かれた「平和の旗集会」に杉本哲也先生と学級委員長の植田伸さんとワールドピースマークを描いた私の3名がご招待いただき、世界中から集まった子どもたちと共に平和について学び合い、手を取り合って踊り、イタリアから寄贈されたオリーブの苗木を植樹して3日間を過ごしました。私の名前はマルコですが、その時はヒロシマという名前でした。ヒロシマは世界で初めて原爆が落とされた場所でもあります。私は原爆が他人事とは思えず、その残酷さを描いた漫画「はだしのゲン」を繰り返し読んでいましたので原爆は二度と使用してはならないと強く考えていました。原爆は一瞬にしてヒロシマの街を破壊し、14万人の尊いいのちを奪いました。私たちがワールドピースマークを描いたのは第二次世界大戦が終わってから 40 年後でした。そして今、それから 40 年が経ち、日本では戦後 80 年と言われています。しかし今、世界では戦争が行われ、街は破壊され、子どもたちが犠牲となっています。

私が 40 年前に描いたワールドピースマークは地球を囲む4人の子どもたちがいます。4人の子どもたちは赤と白と黒の3色で違う皮膚の色、髪の色を表し、髪型や性別も違うようにして多様性を表しました。地球の中心を日本にしませんでした。戦争の根本的原因は自分または自分の国さえ良ければ、他人や他人の国はどうなってもいいという考えがあります。その考えが行き着く先はジェノサイドです。真ん中の地球は陸地が多い側を描きましたので、日本は右端になりました。そして笑顔で手を取り合っている姿には大きな意味があります。世界では戦争が絶えません。戦争では子どもが血と涙を流し犠牲になっていますが、いつか必ず全ての人が人種、皮膚の色、民族、国籍を理由に争うことなく笑顔で手を取り合える日が来て欲しいという願いです。

39 年前にブルガリアで開催され、参加させていただきました「平和の旗集会」は、今を生きる世界中の人が目標とすべき、国境を越えた多文化共生をあらわす国際交流でありました。 まさにワールドピースマークそのものでした。

ブルガリアパビリオンの展示では、公式マスコット「ラクトちゃん」から協力し合う乳酸菌の働きを学び、ブルガリアの IT や AI などの最先端の技術力に驚かされました。さらに、未来は「私たちの選択」によることを考えさせられました。

一日も早く世界中の子どもたちが笑顔で手を取り合える日が来ることを願っています。合掌 2025 年 9 月 6 日 40 年前の大三輪中学校 I 年生 丸子孝仁 Thanks to the generosity of Mr. Georgi Kostov, director of the Bulgaria Pavilion at the Osaka–Kansai Expo, the World Peace Mark will be on display from September 6th to 13th, 2025. This World Peace Mark was drawn 40 years ago by first–year students at Omiwa Junior High School.

40 years ago, in 1985, Mr. Tetsuya Sugimoto, then art teacher at Omiwa Junior High School, gave first-year students a final art exam question: "Draw a peace mark." Mr. Sugimoto was so moved by the peace marks drawn by his students that he wanted to "share the children's thoughts with the world," and created a message of peace in English. The students copied the messages, attached them to World Peace Marks, and sent them to 100 locations around the world, including presidential offices, prime ministerial offices, and art museums around Japan. We received many messages of support from countries such as France, the United Kingdom, and the United Nations. After receiving color scheme advice from art museums in Japan about the World Peace Mark I drew, I remade it in three colors. The following year, in 1986, the three of us—teacher Tetsuya Sugimoto, class representative Shin Ueda, and myself, who had drawn the World Peace Mark—were invited to the Peace Flag Rally held in Sofia, the capital of Bulgaria, to commemorate the United Nations' International Year of Peace. We spent three days learning about peace with children from all over the world, dancing hand in hand, and planting olive saplings donated by Italy.

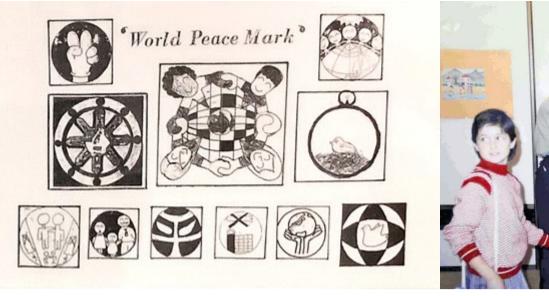
My name is Maruko, but at the time my name was Hiroshima. Hiroshima is also the site of the first atomic bombing. I couldn't help but feel that the atomic bombing was something that happened to me, and I repeatedly read the manga "Barefoot Gen," which depicts its cruelty. I strongly believed that the atomic bomb should never be used again. The atomic bomb destroyed the city of Hiroshima in an instant and took the precious lives of 140,000 people. We drew the World Peace Mark 40 years after the end of World War II. Now, 40 years have passed since then, and Japan marks 80 years since the end of the war. However, today, wars are being waged around the world, cities are being destroyed, and children are being sacrificed.

The World Peace Mark that I drew 40 years ago shows four children surrounding a globe. The four children are depicted in the three colors of red, white, and black, representing different skin and hair tones, and their different hairstyles and genders represent diversity. I did not place Japan at the center of the globe. The root cause of war is the idea that as long as you or your country is safe, it doesn't matter what happens to other people or their countries. This thinking leads to genocide. I drew the globe in the middle with the most land mass, so Japan is on the far right. The image of the children smiling and holding hands has great significance. Wars continue to occur in the world. Children are sacrificed in war, shedding blood and tears, but I hope that one day we will all be able to smile and hold hands without fighting on grounds of race, skin color, ethnicity, or nationality.

The "Flag of Peace Rally" held in Bulgaria 39 years ago, which I participated in, was an international exchange that represented the cross-border multicultural coexistence that people all over the world should strive for today. It was truly the World Peace Mark itself. At the Bulgarian Pavilion exhibit, I learned about the cooperative function of lactic acid bacteria from the official mascot, "Lacto-chan," and was amazed by Bulgaria's cutting-edge technological capabilities in areas such as IT and AI. It also made me think that the future depends on "our choices."

I hope that the day will come soon when children all over the world can join hands and smile.

September 6, 2025 — Takahito Maruko, a first-year student at Omiwa Junior High School 40 years ago



In 1986, teacher Tetsuya Sugimoto, class representative Shin Ueda, and Takahito Maruko, who painted the World Peace Mark, were invited to the Peace Flag Rally held in Sofia, the capital of Bulgaria, to commemorate the United Nations' International Year of Peace. They spent three days learning about peace with children from all over the world, dancing hand in hand, and planting olive saplings donated by Italy.





